

平成 29 年度 公立高等学校入学者選抜学力検査結果について

教学指導課

1 受検者数 ()内は前年度比較

- ・ 受検者総数 11,837 人(-236 人)
- ・ 全日制 11,511 人(-262 人), 定時制 143 人(+15 人), 多部制 183 人(+11 人)

2 教科別結果

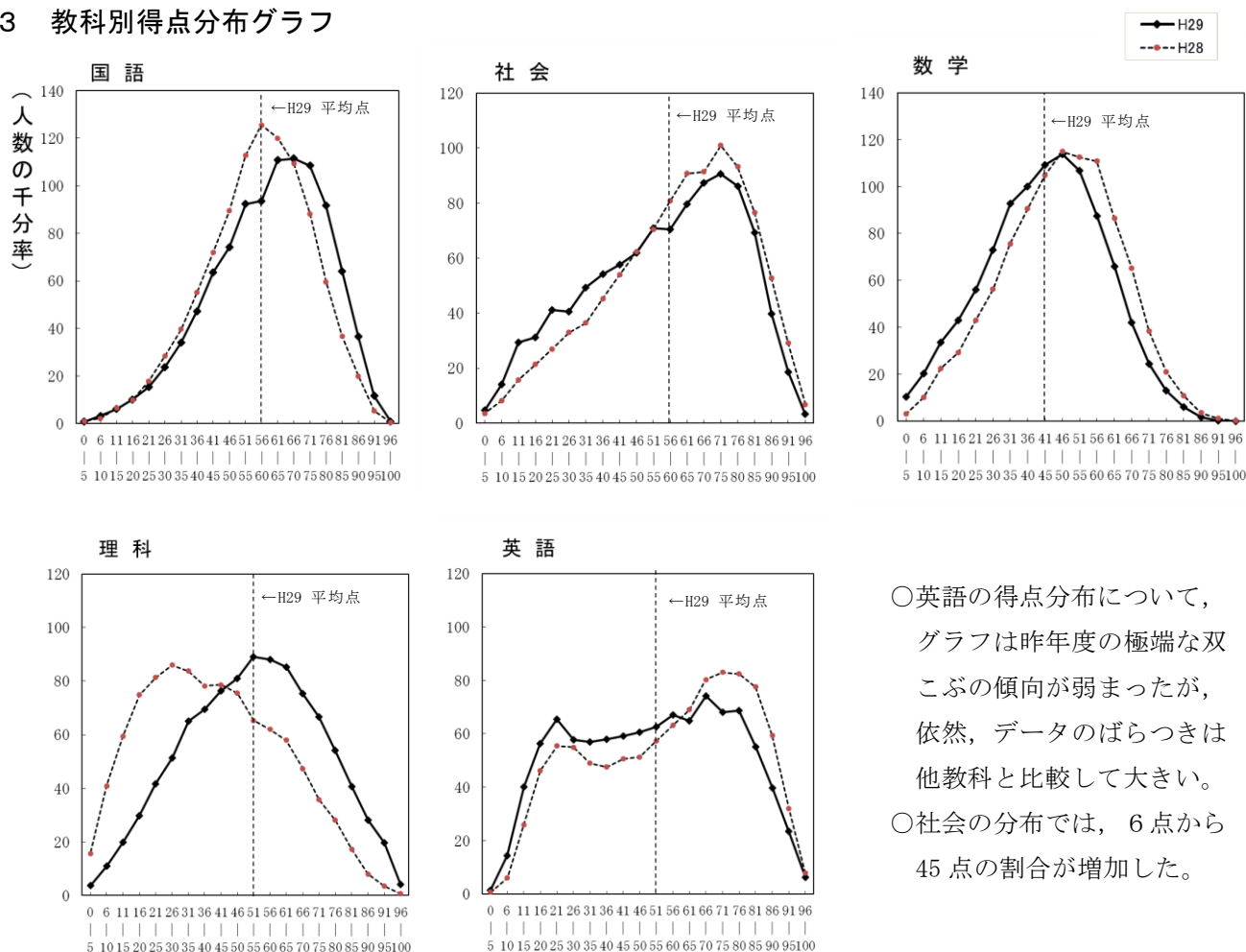
()内は前年度数値と増減

	国語	社会	数学	理科	英語
平均点	60.2 (57.0, +3.2)	55.7 (59.8, -4.1)	43.0 (47.5, -4.5)	52.7 (40.8, +11.9)	51.8 (56.5, -4.7)
100点の人数	0 (0)	4 (4)	0 (0)	10 (2)	12 (5)
0点の人数	0 (3)	5 (9)	15 (5)	2 (22)	0 (2)
標準偏差	17.4 (16.3)	22.0 (20.8)	16.9 (16.7)	20.5 (20.7)	23.4 (23.3)
変動係数	0.29 (0.29)	0.39 (0.35)	0.39 (0.35)	0.39 (0.51)	0.45 (0.41)

○国語と理科の平均点は、昨年度より上がった。特に、理科は昨年度より約 12 点上がり、ほぼ一昨年度並み (55.0 点) となった。

○社会、数学、英語の平均点は、昨年度と比較し 4 点程度下がった。

3 教科別得点分布グラフ



- 英語の得点分布について、グラフは昨年度の極端な双こぶの傾向が弱まったが、依然、データのばらつきは他教科と比較して大きい。
- 社会の分布では、6 点から 45 点の割合が増加した。

4 新傾向の問題について

平成29年度学力検査で出題した新傾向問題のうち、平成28年度の問題と比較可能な国語と英語について無答率に着目して、結果を考察した。

(1) 国語

与えられた説明文を読み取り、それに対する自分の考えを論述する問題。論述の字数は、27年度までは「20字以上30字以内」だったものを、28年度から「80字以上100字以内」に増加した。

(H28年度) 文章Aと文章Bを読み、2つの文章に共通する考えと、それに対する自分の考えを、与えられた条件に従い記述する。

(H29年度) 文章内の指定された記述に対する自分の考えを、与えられた条件に従い記述する。

[考察]

- ・H28年度と比較し、H29年度は無答率が減少した。(右表)
- ・各中学校において、筆者の主張に対して自分の考えを持ち、それをまとめた文章に表す学習に取り組んでいる成果と考えられる。

	無答率
①平成28年度	17.7
②平成29年度	6.2
差②－①	－11.5

(2) 英語

英文を読み、2つのQuestionsに従って自分の経験や考え、思いを適切に英語で表現する問題。(文の数は問わない)

(H28年度) 将来の夢に触れながら、高校で何をしたいかについて記述する。

(H29年度) 中学校で自分が努力をした教科について、具体的に記述する。

[考察]

- ・H28年度と比較し、H29年度は無答率が減少した。(右表)
- ・各中学校において、自身の英語力を活用しながら自分の考えをまとめ、英文で表現する学習に取り組んでいる成果と考えられる。

	無答率
①平成28年度	25.0
②平成29年度	18.5
差②－①	－6.5

5 外部評価者・中学校からのご意見

[成果]

- ・基本的な知識・技能を確認する問題から、思考力・判断力・表現力を見る問題まで幅広く出題され、良問であった。
- ・問題解決能力、思考力を問う良問であり、授業で言語活動を多く取り入れる必要があるという中学校へのメッセージになっている。
- ・思考力・判断力・表現力を問う問題が複数出題されるようになったことを受け、中学校でも定期テストの問題を工夫したり、授業の改善に向け努力をするようになった。

[課題]

- ・教科により、50分の検査時間に対して量が多いと思われる。
- ・出題が複雑すぎることはないよう、受検生のどのような資質・能力を評価しようとしているのかが明確となるような出題をお願いしたい。
- ・論述問題に対する評価基準について、一層の工夫をお願いしたい。

6 今後の対応について

- ・学習指導要領に基づき、知識・技能とともに思考力・判断力・表現力等の学力が総合的に見られる問題となるよう引き続き工夫するとともに、授業改善のメッセージとしても役立てていく。
- ・論述式の問題を含め、全体の問題数や文字数、基礎基本と活用のバランス等に配慮する。